

# 東京の観光振興を考える有識者会議 議事録

令和2年10月19日（月）  
都庁第一本庁舎7階大会議室

**【松本観光部長】**

それでは、ただいまより「東京の観光振興を考える有識者会議」を開会いたします。

本日は、御多忙にもかかわらず、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、事務局を務めさせていただきます、東京都産業労働局観光部長の松本でございます。議事に入りますまでしばらくの間、進行役を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

初めに、本日の委員の皆様の出欠状況について御報告させていただきます。

本日は、委員13名中12名の皆様に御出席いただいております。うち2名の皆様にはテレビ会議での御参加をいただいております。出席者につきましては、座席表の配付をもって代えさせていただきます。

次に、資料の確認をさせていただきます。

本日の会議はペーパーレスで行います。お手元には、議事次第と座席表、資料1の委員等名簿、資料3の「東京の観光産業の復活に向けて～東京2020大会後を見据えた施策の方向性～（素案）」（本文）のほか、参考資料をお配りしております。資料2は卓上のタブレット端末やモニターで御覧いただきます。テレビ会議で御参加の方は、事前に事務局より送付しております資料を御覧ください。

それでは、この後の議事進行につきましては、本保座長にお願いしたいと思います。

よろしくお願いいたします。

**【本保座長】**

皆様、よろしくお願いいたします。

それでは初めに、小池知事から一言御挨拶をいただければと思います。

**【小池知事】**

皆様、お忙しい中の御出席、ありがとうございます。

また、アレックス・カーさん、石井さん、それぞれフランスですか。アレックスはどこですか。

**【カー委員】**

タイのバンコクです。

**【小池知事】**

バンコクも大変ですね。御苦労さまであります。ありがとうございます。

前回も大変活発で、久しぶりに観光のことについて話をできるという状況かとは思いますが、感染拡大の防止に徹底して取り組むということと、観光という重要な産業を回していくということの両方を両立させていきたいと考えております。

国のGo Toトラベル事業のほうに10月1日から東京が追加されたところであり、それに加えまして「もっと楽しもう！TokyoTokyo」という名目で、短くしまして「もっとTokyo」というタイトルで、東京都としての観光振興ということで、都民の皆さんに東京の魅力を再発見してもらうキャンペーンを行うということでもあります。観光産業を回復軌道に乗せるための取組、そしてポストコロナ時代を見据えた取組を今後しっかり進めていきたいと考えております。

そして、皆様方からの御意見を頂戴いたしております。今日はそれについての素案を御議論いただくということでありまして、論点整理を行った上で、ウィズコロナ時代における東京の観光の在り方の御意見をおまとめいただくということです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございます。

#### **【本保座長】**

知事、どうもありがとうございました。

それでは、本日の進め方について御説明をさせていただきたいと思います。

今、知事からもお話がございましたように、皆様からいただいた意見も踏まえて「東京の観光産業の復活に向けて」と題した素案を提出しております。これについて説明をいただいた後、御議論をお願いしたいと思います。

では、事務局のほうから説明をよろしくお願いいたします。

#### **【小林観光振興担当部長】**

かしこまりました。

それでは、資料2「東京の観光産業の復活に向けて～東京2020大会後を見据えた施策の方向性～（素案）」（概要）について御説明申し上げます。

1 ページ目に、本素案の位置づけとポイントを記載しております。先ほど知事からの御挨拶にもございましたように、令和元年度から有識者会議の皆様からいただいた御意見を、本日の議論を反映した上で取りまとめ、11月上旬に最終版として公表することを予定しております。

具体的には、感染拡大による変化を踏まえた観光施策の基本的考え方と、東京の観光産業の復活に向けたおおむね令和3年度までの方向性について御提言いただくものとなります。

2 ページを御覧ください。東京の観光産業を取り巻く状況を3点に分けて記載しております。

1 点目は、これまでの取組についてでございます。都内の観光産業は、2019年に訪都外国人旅行者数や観光消費額が過去最高を記録するなど、順調に成長してまいりました。

2 点目は、感染症の拡大による環境変化についてでございます。一転して本年は全世界で移動が制約されており、観光産業は過去に例のない深刻な打撃を受けております。

3点目は、大会の準備状況についてでございます。来年開催されるオリンピック・パラリンピック競技大会は同一日程、同一会場での実施が決定し、準備を進めております。感染症対策についても、選手など海外からの関係者の受入れに向け、国、都、組織委員会の三者で検討が進められており、東京の観光産業の復活にとっても大変重要な機会となっております。

3ページを御覧ください。今後取り組むべき観光施策の基本的な考え方につきましては、第1に、感染防止対策や観光資源の磨き上げなど、インバウンドの回復に備え、観光基盤を強化すること。

第2に、大会の成功は観光都市東京の最も強力なPRであり、東京の観光復活をアピールすること。

第3に、経済波及効果に着目するなど、持続可能な観光を目指すこと。

以上の3点にまとめております。

これらの考え方を踏まえた施策の方向性について、順を追って御説明いたします。

4ページを御覧ください。まず、観光基盤の強化と段階的な誘客につきましては、第1に、安心して旅行できる環境は今や基礎的なインフラであるとの御意見を踏まえ、事業者・旅行者双方の感染防止対策を着実に推進、としております。

第2に、自然志向や健康志向など旅行者の志向の変化に対応すべきとの御意見を踏まえ、都民の視点から、インバウンドの経験を生かして多摩・島しょの観光資源を磨き上げ、国内観光を振興、としております。

第3に、アジア・欧米豪いずれの地域においてもコロナ終息後の訪日意向が高いことから、東京が安全・安心な町であることを全世界に効果的に発信、としております。

5ページを御覧ください。2点目の大会を契機とした施策展開につきましては、第1に、あらゆる旅行者に対し偏見を持たない受入態勢の徹底が重要との御意見を踏まえ、事業者や都民が旅行者を歓迎する姿勢で接するための意識啓発やアクセシビリティの発信が重要、としております。

第2に、大会で使用した施設がレガシーとして都民や来訪者に親しまれることは大切との御意見を踏まえ、大会施設や日本文化を大会後の観光資源として活用、としております。

第3に、ロンドン大会の成果が英国全土に波及したことも踏まえ、今後も東京が日本のゲートウェイとして各地の魅力を発信、としております。

6ページを御覧ください。3点目の持続可能な観光を目指す視点での施策につきましては、第1に、経済波及効果に着目した富裕層やMICEの誘致が重要との御意見を踏まえております。特に感染拡大後に開催されているリアルとオンラインのハイブリッド型を含む多様な形態のMICEを誘致することとしておりま

す。

第2に、今後はオンラインを主軸とした情報発信が重要になるとの御意見を踏まえ、デジタルデータの活用などDXの浸透を図り、観光事業者の経営力を強化、としております。

第3に、地域・住民に寄り添った持続可能な観光の推進が重要との御意見を踏まえ、都民の観光に対する意識やSDGsの視点を踏まえた指標を把握し、経済、社会、文化、環境のバランスの取れた観光地を目指すべきとしております。

なお、本文は資料3としてお手元に配付させていただいております。

事務局からの説明は以上でございます。

#### 【本保座長】

御説明、どうもありがとうございました。

これまでの皆様の御意見をよく踏まえてまとめている資料だと思っております。

それでは、これから議論に移りたいと思います。

事務局からは、ただいまの素案に関する議論と、皆様の御専門の分野における最近の動きについても情報交換をお願いしたいと言われております。どうもこれは最近の星野さんやアトキンソンさんの目覚ましい活躍を見ながら、何かあればということのようでありますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

発言を希望される方は、挙手をお願いしたいと思ひます。マイクの扱いについてはいつもどおりでございます。

それから、テレビ会議で御参加のお二人は、御発言のない間はミュートをお願いしたいと思ひます。

約40分の議論の時間になります。全員に発言の機会を与えたいと思っております。計算すると一人3分ぐらいになるのですが、そう言うと大体オーバーしますので、2分をめどをお願いしたいと思ひます。

発言をされるときには、マスクを外して発言いただければありがたいと思ひます。

それでは議論に入りたいと思ひますが、今日、田川委員が御欠席ですけれども、事務局のほうで田川委員からコメントを預かっておりますでしょうか。

#### 【松本観光部長】

先ほど御説明申し上げた中に盛り込まれております。

例えばスライドの5ページの(2)大会のレガシーをという項目の1つ目の矢印ですが、大会関連施設周辺を都民や旅行者の交流の場へといった御意見などを盛り込ませていただいております。

#### 【本保座長】

分かりました。ありがとうございます。

それでは、皆様から御発言をいただきたいと思ひます。どなたからでも。

伊達さん、どうぞ。

**【伊達委員】**

ありがとうございます。

全体に、これまでの議論をよくまとめていただいているなと思っています。

その上で、私は素案の資料のほうをベースに見させていただきましたので、それに対しまして3点ほど申し上げます。

まず、3ページ目の「ウィズコロナ時代における観光施策の基本的考え方」というところです。四角の中の1の2こま目、観光資源を磨き上げる好機だということですが、これは当然なのですけれども、再発掘に加え、「資源の有効活用を徹底的に考える」も入れていただけたらと思っています。

先日の会議で、私が公開空地の話をさせていただきました。ウィズコロナ時代で外をうまく活用する必要性を伝えましたが、その後、東京都の公開空地について調べてみました。東京都内には1,130か所の公開空地がございます。公開空地を拡張できる「しゅれ街条例」で使っているのは、そのうち83か所です。この原因の1つは、1ヘクタール以上でなければ使えないという規制があるためです。公開空地だけでなく、プロテクターや屋上も本来は有効に活用できますが、様々な規制があります。すでにあるが使われていないものがあるのです。空地は一例に過ぎませんが、資源を有効活用できるように、規制緩和も進めていく方針も必要だと考えます。

8ページ目です。2大会を契機にして今後どうあるべきか、その施策と方向性についてです。いろいろな事業者がいろいろな商品をつくっていかねばいけないということが書いてあったかと思います。各事業者が民間として努力するのは当然なのですが、行政として、それをモチベートするような、新しい商品をどんどん開発を促すための、キャンペーンを仕掛けるのはどうでしょうか。オリンピックに向けて、行政として大々的に仕掛けていくのです。

10ページ目になります。観光DXについて指摘がされていると思います。これは将来に向かってまさにやっていかねばいけないことだと思います。その中で、そもそもなぜ観光DXが必要なのかと定義づけが必要だと思います。利用者にとっては、これによって利便性が高まり、そして付加価値が高まり、満足度が高まっていく。だからリピーターにつながっていくし、事業者にとっては、これが活用されることで生産性が上がり、やはり付加価値が高まっていき、事業というものが改善していくはずです。目的を明確にし、それを具体的なルールに乗せていくために、行政としてこのスケジューリングをしていくという趣旨が入ると、よりよくなるのではないかと思います。

以上です。

**【本保座長】**

貴重な御指摘をどうもありがとうございました。

最初の有効活用の点は、例えばユニークベニューについても、今、知事の御指導でワンストップで動かしています。そういう取組がないと、実際上なかなかうまくいっていないというケースが多いと思いますので、ぜひ留意いただけたらありがたいと思います。

次は玉井先生、お願いします。

#### 【玉井委員】

私は、2点ほどお話ししたいと思います。

その前に、先ほど知事のお話にもありました、もっとTokyoキャンペーンの宿泊施設に一律5,000円の定額給付というのは非常に理にかなっていると思います。ある種の公平性を担保するという意味では、今の時点では定額制というのが一番よろしいのではないかと思います。

1点目、画面の3ページ目のインバウンドの回復に関し、MICEの視点からお話ししたいと思います。

インバウンドがほとんど消滅状態の中で、今はMICEどころではないだろうと思うのですが、私は今が非常にチャンスではないかと。コロナ禍の中、世界の社会経済活動の基盤、最優先事項は安心・安全であり日本のコロナ対応に関して、これは結果論かもしれませんが、現状ではかなりいい評価をいただけているのではないかと思います。

この現状の結果に関し、私は日本国民の社会性ですとか、特に衛生管理あるいは健康に対する意識が非常に高いというのが一つの大きなポイントだろうと思っています。そうだとすると、この視点からMICEのビジネスモデルを組み立てていく。今、海外からの誘致は無理ですが、星野さんの言うマイクロツーリズムでは無いですが、マイクロMICEみたいな形で、身近にある小規模な集宴会から、日本的衛生管理に基づいた安心・安全なMICEのビジネスモデルをつくっていく。もう既にシンガポールや競合の各都市では新たなMICE誘致の発信をしていますが、これに対して日本は、今申し上げた視点からも発信ができると思っております。まず身近な集宴会ビジネスをきちんと組み立てていく。この成功体験の積み上げとその成果を全面的にPRすることが重要ではないかと思っています。

もう一点は、4ページになろうかと思いますが、新しい日常への対応についてです。私は、ある観光に関する応募論文の審査員をやっています。これは一般の部と学生の部とあるのですがここ数年、特に学生からの応募が非常に増えております。若い世代に興味を持っていただけるということは、非常にありがたいと思っていますが、その中で特徴的なのは、観光に対する論文の視点が変わってきているのです。

私は宿泊がメインの論文審査で、IT関連はもちろん多いのですが、それに加えて、近年では地域社会と観光の視点から「地域社会と宿泊施設の関連性」更

には「医療や福祉ビジネスと観光・宿泊産業との連携の可能性」等、シェアリングビジネス的視点の論文が増えております。

特に2番目の視点に関しては、医学系の学生からも提出されています。これは、社会が大きく変化していく中、若い世代は今まで単眼的に見ていた観光を、複眼的に捉えようという意識の高まりと思っております。そういう意味で、観光産業は若い世代の多面的な視点から、多様な産業ともっと積極的にアライアンスすべき時代に入ってきたと私は思っております。

こういう新しい社会の視点の一つとして、今、東京都さんが多摩地区において、今注目されている、ワーケーションビジネスに関し実証実験的に取り組まれています。こういうワーケーション的な働き方や社会変革は観光の視点も含め、場合によっては福祉・介護という医療系の視点も入ってくると思います。このような多摩地区の実証実験的事業は、都の関係各部署さんが協力する形で一つの成功モデルとして組み立てていただければ非常にありがたいと思っております。

以上です。

#### **【本保座長】**

ありがとうございます。

攻略すべきセグメント、その視点を御提供いただきましてありがとうございます。

続いて矢ヶ崎さん、どうぞ。

#### **【矢ヶ崎委員】**

発言の機会をありがとうございます。

今ほど玉井先生からMICEのお話も出ましたので、関連した発言を申し上げたいと思ひまして、このタイミングで手を挙げさせていただきました。

私、今日の資料は全体的によくまとまっていると思っております、異論はないところでございますが、その中でも特に少し急いで、スピード感を持ってやっていただけたらうれしいかなと思いますのがMICEであります。東京都のライバルは既に動いております。そして、海外の方から最近、東京はMICEの舞台から降りたのかという怖いコメントをいただくこともあるのですけれども、小規模のリアルから始めたシンガポールや、ハイブリッド形式を磨いていらっしゃるタイであるとか、もちろんお隣の韓国なども非常に頑張っている。競合国、都市は既にMICEを戦略的に進めているらしいです。

東京のMICEというこのすばらしい取組が今後どうなっていくのか。どのような取組を東京で行っていったらいいのかということについて、海外の方々が分かりやすいように発信をしていくということを急ぐ必要があるのではないかと思っております。

MICEは御承知のとおり誘致までのリードタイムが長うございますし、ビッグ

イベントの後に需要が落ち込むということが起こる可能性がございます。今後の需要をしっかりと確保するために戦略を立てて、なるべく早くに取り組み、海外に対して、東京はMICEをしっかりとやるのだということを印象づけていただけると大変ありがたいかなと思っております。

今、申し上げましたことを支えるバックボーンとして、MICE人材と技術・設備の高度化といったことも少し支援をしていかなければならないのかなという気がしております。MICEの中でC以外の部分のビジネスというのは、クライアントがいて提案型というところもありますので、市場を開拓していくというマインドをお持ちの方々が多うございます。C、国際会議については意外と定型的な業務が多うございますので、市場の環境変化にイノベーションを、スピード感を持って対応していくというのは、ほかよりも少しゆっくりのような気もしております。ハイブリッドが方向性の一つということになっております。開催方法がオンラインに置き換わるという単純なことではなくて、全プログラムのどこをリモートにし、どこをリアルにするのかといった切り口自体も企画力ですから、これを主催者に刺さり、あるいは付加価値を生み、マネーを生んでいく源泉にしていく必要があります。

また、ハイブリッドの場合は使用する技術に熟達していないといけませんので、ICT設備だけあっても駄目で、使いこなせる人材がセットで必要になってくるということだと思っております。

そのためにも、MICE施設におけるデジタルトランスフォーメーションも、都が後押しをして少し進めていただけると、大変MICEの競争力強化の土台づくりになるのではないかと思います。

最後に1つ、短くです。持続可能な観光を目指すというところで、都民の皆様が観光に対してどのような意識を持っていらっしゃるかを把握するというのがありました。これは非常に大事な取組で、指標にもなり得ると思いますが、意識だけでいいでしょうか。都民はいろいろな形で観光に参加していると思います。ボランティアで参加している人もいるし、我が大学のように勉強されている方もいらっしゃると思いますし、加えて、合法的な民泊で接点を持って参加されている方もいらっしゃると思います。このような都民の意識に加えて、参加といった能動的なところも把握しておくことによって、オーバーツーリズム対策、SDGsへの対応を説明していく基礎的な材料になってくるのかなと思いました。

発言の機会をありがとうございます。以上です。

#### **【本保座長】**

どうもありがとうございました。

MICE、持続可能性、大事な点で御指摘いただきました。

ロンドンオリンピックのときも、オリンピック後に需要が落ち込むというこ

とで、仕掛けとしてMICEを事前に取りに行ったということがございましたけれども、現状、東京は何もやっていないのではないかと、捨てたのではないかと思われては本当に困ると思いますので、しっかりお願いしたいと思います。

それから、施設のお話もありましたが、有効に施設を活用するという伊達さんのおっしゃったことに通じるような問題もあります。知事は御案内ではないかもしれませんが、東京国際フォーラムは国際会議でほとんど使えていません。私が知っている数字だと、東京国際フォーラムのいわゆるキャパシティの中で、年間の稼働の中で3%しか国際会議に使われていないという状況がありまして、事実上、国際会議を受けられないケースがたくさん出ているという現実もあります。今ある施設を政策に合う形で全体の有効利用を図っていくという観点が大事だろうと思われま

す。長くなりましてすみません。

次は根木さん、お願いします。

#### **【根木委員】**

根木です。よろしくお願いします。

私は、2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会はもちろんすごく楽しみにしている一人ですけれども、以前から大会後をずっと楽しみにしています。

何といっても大会後のレガシーとして、IPCでいうと、パラリンピックムーブメントを通じてインクルーシブな社会の創出、本当に誰にとっても優しい、住みよい町になるというのが東京であるということを目指しているのですけれども、その中で、今まで観光ボランティアさんという文化活動をされていたと思うのですが、大会期間中にはシティキャスト、都市ボランティアさん、すごく多くの方々がそれに向けてボランティアという意識も大きく変わってくると思うのです。僕は以前からそれが観光にとって、日常生活にとってもそうなのですけれども、すごく楽しみにしていく中で、今後この大会が終わった後に、本当にこれを成功させて、みんなに安心・安全で楽しい都市を日本中、世界中にアピールすることができると思うのです。そのとき、また元に戻って観光ボランティアさんの名前に変わるのでしょうか。その人たちの役割はすごく大きいと思うのです。今まで以上にそのことの必要性として、新たに情報としてコロナについての対策というか、そういう新たな学び、情報や役割というものも大きく変わってくるのかなと思っているので、その辺も、これから実際に都市ボランティアさんの新たな役割はどういうものがあるかをもっと考えていけたらいいなと思います。

結果として、誰にでも優しい都市、新たな都市としての観光につなげるようなすてきな東京になったらなと思っています。

以上です。

**【本保座長】**

どうもありがとうございました。

大会のレガシーとして定着させ、いかに発展させるかという御提案だったと思います。ありがとうございます。

どうぞ。

**【牧野委員】**

牧野です。よろしくお願いします。

素案は全体的にすごくまとまっていて、ありがとうございました。

この中で、資料3の10ページ、11ページに書かれているDXに関して、少しコメントさせてください。

まず、観光施設の混雑状況を表示するシステム等の導入について書かれていますが、日本のみならず世界的にも、旅行先の混雑状況は気になる点となっています。そのため、観光施設だけではなく、そこに至るまでの交通やエリアそのものがどれだけ混雑しているかということも旅行者の気になる点です。そのため、観光施設だけでなく観光地を「面」として混雑情報を提供できるようなことをしていただければと思います。

コロナ禍において各地域に置かれているライブカメラの利用が上がったという傾向も出ています。混雑情報だけでなく、単純に動画サイト等で観光地の状況をライブカメラで見られるといったものに関しても利用されるため、ライブカメラの設置等も含めて御検討いただければと思います。

2点目が、施設に入ってからへの対応も旅行者の気になっている点であることです。最近弊社で投稿されている口コミを分析してみたところ、不満点が特に多いのが、施設の中で入場やチェックイン時に待たされるということがわかりました。待たされるといったことが多くの不満につながっていますので、非接触の対応としてキャッシュレス決済についても出ていますが、例えばオンラインのチケット予約やオンラインのチェックインなど、待ち時間を減らし、感染リスクを避ける対応をすることで、感染リスクを下げることはもちろんのこと、待ち時間を減らすことは旅行者の旅行体験の向上につながるので、この点も施設への支援として検討していただければと思います。

最後にデジタル化全般なのですが、観光施設の方々はもともとデジタルが専門ではありませんので全体的に使い方やデジタルデータの扱いや、デジタル化のメリットについては詳しくありません。そういった基礎的な考え方や知識をを学べる機会の提供もお願いします。基礎を学ぶことは、1回支援して終わることなく、継続的なデジタルの利用につながります。そのため、教育的な面に関してのサポートもいただければと思います。

以上です。ありがとうございます。

**【本保座長】**

どうもありがとうございます。

具体的な御提案をありがとうございます。

恐らく都全体で進められているデジタル戦略の一環の中で扱うべきテーマがたくさん含まれていたと思います。ありがとうございました。

それでは、マリさん、どうぞ。

### 【マリ委員】

かなりたくさんの方のことをちゃんと聞いてくださり、たくさん網羅されていることはすごくいいことだと思います。

最近幾つか、気になることがあったのですが、海外から来られている方々や日本の方もそうですけれども、今、お話がありましたように、例えばお店に入ってくるときのマナーとして、席に着くまでちゃんとマスクをしてもらいたいとか、それはお店側だけではなくて中で一緒に楽しんでいる者としても、自分の前を通ったときにマスクをして通ってほしいなとマナーの強化をしていただきたいと思います。それは情報でしかできないことだと思うのです。

それと、外国人に対してお話をするときに、日本の神社に入るときにも、古来、日本人はお参りする前に手を洗って、口をすすいで、清めてから入っていくという文化がありますが、日本人にはそういった衛生管理的なことがDNAにしみついていると思います。

海外から日本に来られた方に、そういった習慣を知っていただくことは、とても大切なことだと思います。それをどのようにして伝えていけるかを考えなくてはならないと思います。

あと、最近ドライブインシアターがあちこちで見受けられます。東京にはたくさんの方の広い駐車場があるので、夜間に駐車料金を安くしてそのようなイベントをする。コロナ禍においては、いろいろな方々が創意工夫をしてニュービジネスを立ち上げ、この状況を乗り越えていかななくてはなりません。クラウドファンディングもそうですが、東京都が支援するというのもすごく重要だと思います。

1つだけ非常に水を差すような話をしなければいけないのですけれども、万が一、来年にこの大規模イベントが開催できなかったとき、コンティンジェンシープランがあるのかどうかということが、どこからも見受けられていないのです。今までできた施設や建物、そしてやっていかなければいけないようなイベントが本当にゼロになった場合に何をするのかということは、同時に考えていかななくてはならないと思います。私はそういう一つ一つのものを勉強したり、研究したわけではないのですけれども、例えば来年のオリンピックの時期に万が一できなかった場合、国体を東京でやりましょうとか、大きなサッカーゲームをやるとか、またラグビーをやっていただくとか、いろいろなスポーツ集団が日本中にあるわけですから、逆に、国内オリンピックみたいな形で施

設を使っただいて、人に安全に動いていただいて、そういうところを活用できるような提案だけでもみんなで考えていきながらやっていけば、万が一またこういうことになってしまった場合には、延期ではなく、何かを別な形にすり替えて考えていただくということを考えてもいいのではないかと思います。

コンティンジェンシープランというのは、世界中どこでも大きなイベントをやったり何かするときには考えることであるわけですから、ある意味では1つパラシュートがそこにあると、オリンピックほどの効果はないかもしれないですけれども、今まで投資してこられたたくさんの企業の方々や地域も、何らかの形で少しでも自分たちの足しになれるような何かを考えていただければと思います。来年に向けて、東京2020というのは本当にみんなに大きな期待を持たれているものだけに、万が一ということも含めて、同時に考えていただけたらどうかと思います。

#### 【本保座長】

どうもありがとうございました。

既に盛り込まれている新しい旅のエチケットに関する具体的な提案等をいただいたところですが、他方で、一番最後のポイントはやや大き過ぎる話であって、この場で扱うのもどうかと思いますので、お預かりするという事でよろしいでしょうか。

星野さん、どうぞ。

#### 【星野委員】

私は内容についてはあまりないのです。申し訳ないです。

ただ、何となく僕が気になっている点というのは、この「東京の観光産業の復活に向けて～東京2020大会後を見据えた施策の方向性～」というタイトルの割に、中身にとげがないのです。小池都知事らしいキャッチーな方向性が見えてこないというのが、ぜいたくな話で今後のことかもしれないのですけれども、それだけがちょっと心残りという感じです。

満遍なく今までの議論の内容を網羅しているし、納得のできる内容が盛り込まれているのだけれども、内容を細かく読んでみると、それぞれの重要なテーマを取り上げていながら、右でもなく、左でもなく、努力するみたいな感じになっている、とげのなさというのがちょっと気になりました。

もう一つなのですけれども、星野リゾートの中でもSDGsの意識が高まってきており、私も真剣に考えているのですけれども、観光が伸びたときに、SDGsの17項目で一番問題になるのはペットボトルだと思っているのです。これは観光客に比例して伸びてきてしまうのです。ほかは観光が伸びることによっていいこともたくさんあるのですけれども、そこがネックで、今、星野リゾートの運営施設ではペットボトルゼロを目指しています。部屋に置くのをやめよう、自動販売機もやめよう、ウォーターサーバーで無料でお客様に自分で持っていつ

てもらおうという方向で、それが今、かなり浸透してきているのです。

よくマサチューセッツ州に行くと、冷蔵庫の中に何かを置いてはいけないとか、州ごとにいろいろとあったり、ヨーロッパでもホテルに対する規制は都市で違うのですけれども、SDGsあたりはインバウンドが3,000万、6,000万になっていくときに、マイナスに働く部分に関して大きく規制をかけてしまうというような方向があるのではないかと。それはみんな守らなければいけないルールなので、競争にとってフェアなのです。それ自体を持っている東京なるものは、我々は世界にプライドを持って、観光産業が我々はこのなのだと言える部分があるので、何かそういうとげのあるコンテンツを将来的につくっていききたいなというのが私の願いであります。

以上です。ありがとうございました。

#### **【本保座長】**

ありがとうございます。

確かに矢ヶ崎さんからも御指摘がありましたが、計画を出して、都民に関心を持ってもらって、インボルブしていくことは非常に大事で、そのときにピンとくるものがないと動かないというのは星野さんがおっしゃるとおりだと思いますので、工夫の余地があるのかなと思われます。

次は滝さん、よろしいですか。

#### **【滝委員】**

私はオリンピックのことに触れたいと思っているのですけれども、50年前のオリンピックを経験していますが、今回のオリンピックが決まったときにも本当にうれしかった。東京オリンピックとは何か。前回は今回もオリンピックを契機に、いかに国際的なレガシーをつくるかだと私は思います。それが観光につながるということを考えた場合、今日までにも、オリンピック後のレガシーを考えたいろいろな施設やソフトウェアが準備されていると思うのです。

今、インバウンドは、日本に来る人は完全に止まっているのですけれども、でも海外にいながらとか、在日の外国人から我々が運営する観光情報サイトへのアクセスは全然減っていないのです。そういう意味では日本に非常に興味を持っている。そういうことから考えると、できれば早めに、レガシーとして東京が積み上げてきているものの詳細情報を徹底的に発信していくということがものすごく魅力になるのではないのでしょうか。そして、近々に再開されるインバウンドはトライアルで海外から受け入れていくことになると思うのですが、小さく始めたときに、日本に来たい人が楽しむライブ情報というのでしょうか、それをつくっていきながら徹底的にPRするというのが意外や意外、日本の将来の観光のために、うんと大きな価値になるような気がしています。資料を見ていてそのようなことを思いました。

#### **【本保座長】**

どうもありがとうございました。

デジタルトランスフォーメーションの取組の中で、ライブ性が非常に重要で、そこを強調すべきだというお話だったと思います。

どうぞ。

### 【アトキンソン委員】

資料全体を見ると気になるところが幾つかあります。まず、この資料の中に情報発信、プロモーション、PRの文字が約20回出てきています。そこまで東京都として観光イコールPRであるという方針であるとするれば、それで結構だと思いますけれども、感覚的には、情報発信に偏り過ぎているという感じがします。

先ほどの話にありましたように、例えば規制などの問題解決など、いろいろなインフラ整備をしなければいけないところがあるものの、インフラ整備、磨き上げの文字が何か所も出ていますが、20か所は出ていないというところなので、情報発信に対する比重が少し重過ぎるのではないかと思います。

もう一つは、皆さん御存じのように、しばらく続くと思いますが、今、日本国内または諸外国のほうで一番効果的な情報発信が、自然観光のところが注目されているところですので、今まで知事がずっと強調していらしている東京の大自然のところ、奥多摩などの方とか、をもう少し効果的に比重を高めていってもいいのではないかと思います。特に離島といいますか、島のほうも非常に魅力的なところがあると思います。

PRの話をしたにもかかわらず、ここで見るとデジタルマーケティングのほうを明確にしたほうがいいのではないかという感じはします。マーケティングとかなんていってもいいのですが、デジタルマーケティングでフェイスブック、インスタグラム等々をもう少し強く出していったほうがいいのではないかと思います。

日本政府観光局の資料によりますと、現在、日本人の国内においては、ほとんど知人、家族から、または宿泊施設、旅行会社から情報収集していますので、アクティビティー等々それ以外の魅力に関してはほとんど伝わっていない。特に若い人の場合ですと、フェイスブック、インスタグラム等々の情報の収集の仕方は非常にニーズが高いにもかかわらず、ほとんどやっていない。このところで、デジタルマーケティングをかなり強化する必要があると思います。

ちなみに、日本政府観光局は国内にも情報発信をすることが可能になりましたので、今後、年末、年度末にかけて、日本人に対しても丁寧にならざるを得ない宿泊施設等々だけではなく、それ以外のアクティビティーを情報発信することに力を入れることになるかと思っています。

次は感染状況の問題で、これは気をつけなければいけないと思います。国内のいろいろなアンケート調査の結果としては、一人でも感染者がいるところに関しては、非常に敏感な人は半分ぐらいだと言われています。ですから、日本

の感染状況は相対的によかったとか、そんなに出ていませんとかをアピールしても、そもそも半分ぐらいの人は、一人でも出ているならば行かないという非常に敏感な人です。敏感な人はやはり動かない。この人たちをどう動かすのかということが大事な話になるかと思います。

諸外国の最近のデータによりますと、65%は敏感になっていて、観光に行きたくない。ですから、感染は少ない、相対的に抑制がきている、できていないということはその人たちの誘致にはつながらない。あくまでも観光客は自分の立場しか考えていない人たちですので、日本は相対的に抑制に成功している、成功していないということではなくて、来たときに、どういう体制、どういう対応、どういう対策を打っているのか、感染はどうやって確認するのか、どのような治療になるのかという自分のことしか考えていないことを基準にして、先ほどのマリさんの御指摘にありましたように、あくまでもそのような情報を、その観光客の立場に立った形で発信しなければいけないということは気になることです。ですから、賢くアピールするということは大事だと思います。

以上です。ありがとうございます。

#### **【本保座長】**

ありがとうございました。

情報発信のポイント、方法を御指摘いただきました。他方で、情報発信過多になるなどおっしゃっていたと思います。その点は皆さんからもコンテンツの具体化、磨き上げの発言をいただいていますので、安心していただいていると思います。

それでは、海外のお二人から御発言をいただきたいと思います。

#### **【カー委員】**

旅行者が日本に着いてからの話が多いのですが、1つだけ私が気になるのは、とにかく海外旅行自体が非常に難しくなって、ワクチンができたとしても、きっと来年の夏まで、場合によっては再来年まで隔離期間や何かしらの制限が続くのではないかと思います。

タイ政府はそういうことを理解して、どうせ隔離期間が必要なら、それもバカンスにしましょうということまで検討し、プーケットなどでは試験的に中国人団体を呼んで、2週間、海岸沿いのきれいなホテルに泊まりましょうということを考えています。

1つ今すごくネックになっているのが、受け入れ時の対応です。例えば私が来週日本に戻ろうと思えば、バンコクの日本大使館に行って、書類を申請しなければいけません。いろいろな書類を発行してもらった後も、出国前の検査が義務付けられているので、無感染を証明する書類を病院に取りに行く必要がある。それも日本が認めた試験でなければならないので、非常に高額です。日本に着いたら、即ほったらかし。自分で移動手段を確保しないといけない。でも

公共交通は使ってははいけないと。ホテルは東京都内でも自分で見つけてくださいと。手段は非常に限られます。

きっと、この問題は来年の夏までになくなるような簡単な話ではないでしょう。ですから感染問題が続く限り、隔離期間があるし、事前の検査も受けなければいけない、そういうことはしばらく続くだろうから、少しでも優しくウェルカムとなるような受入態勢を考えていかないといけないと思います。

というのは、大なり小なりとにかく旅行をしにくい。どうしても限られてしまう。それが現実なので、いかにウェルカムにできるかということだと思います。

**【本保座長】**

どうもありがとうございました。

それでは、パリからお願いいたします。

**【石井委員】**

資料のまとめ、それから各委員の皆様から大変貴重な御意見、どうもありがとうございます。

私のほうから3点ございまして、まず1つ目が私の専門でもあります夜景に関する内容です。

お配りいただきました資料3の8ページ目から9ページ目、大会のレガシーを活用した大会後の観光という中に、施設の夜間活用やライトアップなど夜間でも楽しめる空間として、昼間とは違う魅力を体験できる機会を提供するということを織り込んでいただいております、大変意義深いことだと思っております。

大会施設だけではなく、ほかに活用できることはたくさんあると思います。例えば東京都が持っている美術館や動物園。動物園の夜間開館というのは大変おもしろいのです。哺乳類の70%ぐらいが夜行性でありますので、夜のほうが動物園は活発化しておもしろい。それを逆手に取ったシンガポールのナイトサファリなどは非常に国際的にも、また照明の施設としても有名なものでございます。そうした今までに既にある施設で夜間開館することによって、新しい魅力を発信することができるという可能性はたくさんあると思います。

また、先ほどのカーさんのお話にもあったように、日本は幸い、行き来しにくいというデメリットもありますが、その分、1回来たら泊まらなければいけないというメリットもございます。それは東南アジアやヨーロッパのような国が密集しているところでは、国をまたいで日帰り出張というのはよくあることで、泊まってくれないという問題がありますが、日本はほとんどの方がお泊まりになる。そこをメリットとして捉えて、そのためには、もっとナイトライフ、夜間の活性化、治安の確保ということを本格的に取り組むことによって、日本のアピールができると思います。

自然という観点からも、自然資源をこれからもっとアピールしようというのがあります。自然の場所から月明かりや星を見るというような、光と関係する観光というものの一つ観点になりますし、そこに行くために真っ暗な夜道を歩いていくというのも抵抗があると思いますので、環境を視野に入れた環境に優しいライトアップ、照明づくりというものも国際的にも進んでいる分野でもありますので、そうしたものを積極的に取り入れてはいかがかと思いました。

2 番目です。先ほどからMICEの強化についての御指摘が幾つもございましたが、最近私が聞いたところで、ヨーロッパでもこうしたコロナの感染が進んでいる場所では、これまで毎年定期的に行っていた大きな有名な展示会が、場所を変えて行う、もっと感染が少ないところで行ってはどうかということを実際に検討する際にキーポイントとなるのが、その受入側の国や地方行政、地元の行政（ローカルガバメント）の支援がいかになされるか。どうぞ来てくださいだけではなくて、日程を決めて、大きな展示会を開催すると決めたら、その間、絶対にロックダウンはしないとか、必ず政府が責任を持ってその展示会が成功するように全面的に支援しますということを確認する。これが展示会主催者にとっては大変なファクターになるわけで、来てください来てくださいではなくて、本当にやって、成功するまで一緒に取り組みますよという姿勢があることが非常に大切なポイントになっているということを聞きましたので、参考までに御紹介いたします。

3 点目ですが、御存じのように、パリは先日から夜間外出禁止令というものが出ました。戒厳令などと略されたりしまして、照明デザイナーとしては非常に重く受け止めている状況ではございますが、それでも9時の戒厳令の前に、皆さん9時の5分前まで非常に活発に外に出ておられます。この週末もびっくりするぐらい、夕方の7時から9時ぐらいまでの外出、カフェのテラスの満席率が非常に高うございました。

こうした中で、非常に外に出たいという欲求が逆に増えていることも事実でありますし、美術館なども外に長蛇の列をつくって、皆さん御覧になります。それから、禁止令少し前でしたけれども、ニュー・ブランシュという、パリ中に現代美術のアート作品を展示して夜中に見に行くという祭典がございますが、こうしたものにも外で何時間も待つほど人が出て、文化的なことに対するイベントへの欲求不満というか、ニーズ、それによる効果というものが、こうした状況の中でも非常に明瞭にあるということを私も体験しました。

そうした中で、夜間外出禁止令があってもナイトライフというのは持続的に楽しめるものであるという認識をまず共有して、後でそれをどのように活発化していくかということを経営することが必要であると思います。

それから、観光客の中には、日本人と違うメンタリティーを持っている方もあるということで、例えばこうしたレストランに行ってはいけないなどという

ときに、レストランで本人の名前と電話番号を書かなければいけないのですが、そこにでたらめな名前、でたらめな電話番号を書く人が続出しているということが今、フランスでは非常に問題になっています。こうした日本ではあり得ないようなこともあるということを想定するというのも、危機管理としては必要なのではないかと思いました。最後に蛇足ですが、付け加えさせていただきました。

ありがとうございます。

#### 【本保座長】

大変興味深い御指摘、情報をどうもありがとうございました。

知事、すみません。もう4分過ぎているのですが、もしお許しいただけるならばアトキンソンさんに。

#### 【アトキンソン委員】

今、アレックスさんから話があったのですが、公共交通機関の利用、隔離のことは国のほうで再検討するという動きになっているところなので、特に重要になってくるのは、成田、羽田から東京に入ってくる際の公共交通機関です。成田エクスプレスなどは交通機関の分類に入るのでしょうか、つい先ほどまで飛行機と一緒に乗っていた人がその電車に乗っていて、普通の人あまり乗らない、特に成田エクスプレスの場合はそのようになっているので、公共交通機関の分類に入れていること自体がおかしいのではないかと思います。少なくともリムジンバス、もしくは成田エクスプレスみたいに国際線から乗り継ぐ人たちの専用スペースをつくってあげれば、そういうケースを許可するということは案として出されていますので、ぜひとも知事のお力を貸していただいて、そういう方向に動けばいいなと思います。

もう一つあるのは、東京都としては、例えば動くときに検査をすればするほど安心ができる、受入れも安心することなので、検査を数多く受ける整備が必要です。少なくとも外国人は出国する前のときに1回検査をして、東京に着いたときにもう一回検査をやっていますけれども、旅中でも、特に移動するときにもう一回やれば、移動する方も受け入れる方も安心ができるということなので、Go Toキャンペーン、もっとTokyoをやるのであれば、Go To検査を組み込んだほうがいいのではないかと思います。検査は4回やれば偽陰性が出る確率が1%以下になるそうなので、国内の日本人の感染リスクよりは、外国人のほうが逆に低くなってしまいます。例えば東京駅もしくは品川というようなハブのところに、旅をするときに検査ができる施設をつくれば、今回のコロナのみならず、どうせ次も次も次も10年置きにパンデミックが出てくるはずですので、メインの移動ができるハブのところに検査施設が常にインフラ整備としてあってしかるべきものではないかと感じるところであります。

ありがとうございます。

**【本保座長】**

どうもありがとうございました。

ぜひ、政府の戦略会議の委員としても頑張っていたいただきたいと思います。

大分時間が過ぎてしまいました。このあたりで議論、意見交換を終わらせていただきたいと思います。

意見の集約につきましては、時間の関係もございますので、座長である私に御一任いただければありがたいと思いますが、よろしゅうございましょうか。

（「異議なし」と声あり）

**【本保座長】**

ありがとうございます。

最後に、知事から何か一言ございますでしょうか。

**【小池知事】**

貴重な、また大変参考になる御意見を賜りまして、ありがとうございます。

とげがないということですが、私は百合なのでとげはないですね。ただ、行政のタイトルとしてこれを生かすにしても、分かりやすくするためのコピーはつける必要があると思います。

その中で、私が海外から日本に来た方から聞かされることは、東京にはごみ箱がないと言われるのです。時々キャンプ場辺りではごみを散らかして帰る人もいるみたいだけれども、基本的にはごみ箱がないですね。みんな持って帰る。テロ対策もあるかもしれません。東京に空がないと言ったという有名な言葉もありますけれども、東京にはごみ箱はありません。ソーリーということでPRすると、それはすなわちSDGsにつながったり、町がクリーンであるということにつながったりするので、そこは工夫をさせてもらえればと思います。

やはり、オリパラ後をどうするのかというのは、かねてからずっと検討もしてきたのですけれども、オリパラそのものが延期されて、予定がかなり大幅に狂っているということも事実ですが、コンテンツについてはいろいろありますけれども、それも日程の組み直しとかがあるので、これも同時に進めていく必要があることについては、当然理解をしているところであります。情報発信は当然ながら、中身をもっと詰めていくということ。

それから、バンコクから御参加いただいているアレックスさん、ありがとうございます。実際に、外からどうやって外国の方が日本に入ってくるかという厳しさというか、諸外国と比べてどうなのかとか、その辺のところも見えていないと、日本はウエルカムではないのではないかと。その前にコロナ対策は当然必要であるわけではありますが、極めて具体的な情報をありがとうございました。

また、先生方からそれぞれ本当に有効な御提言をいただきましたので、本日の素案の中にもいろいろと含みながら、本保先生のほうにお任せをして、東京

にまた行こうよという気運をしっかりとつくっていきたいと考えております。

そのためにも、オリパラが開けるようにしなくてはいけないということがまず何よりも重要な課題であり、そのために国内外いろいろと情報を集めながら、どのようにして開いていくのか、どのようにして成功させるのかなど、しっかりと詰めていきたいと考えております。

御協力賜りまして、ありがとうございました。Thank you so much.

**【本保座長】**

知事、どうもありがとうございました。

それでは、事務局のほうにお返ししますので、連絡事項等がありましたらよろしくをお願いします。

**【松本観光部長】**

本日は、貴重な御意見をたくさん賜りまして、ありがとうございました。

皆様から御提案いただきました内容等につきまして、今後の観光振興施策の推進に生かしてまいります。

ありがとうございました。

**【小池知事】**

ありがとうございました。